MeshMgr By Ingenious

- AC Switch -

操作マニュアル

第 01.01 版
(IM-D-01-0101)
2026 年 10 月 20 日
Yoneda Information System.

改定履歴

版数	改定日	改定内容
01.00	2026 年 10 月 02 日	初版
01.01	2026 年 10 月 20 日	アプリケーション修正に伴う修正。

目次

1　はじめに 1
2　設定の概要 1
3　表示アイコン 2
4　プロビジョニング 3
5　サブネットの設定 6
(ア)　サブネットの作成 6
(イ)　サブネットの削除 8
(ウ)　サブネット名の変更 10
6　アプリケーションキーの設定 12
(ア)　アプリケーションキーの作成 12
(イ)　アプリケーションキーの削除 14
(ウ)　アプリケーションキー名の変更 16
7　グループの設定 18
(ア)　グループの作成 18
(イ)　グループの削除 21
(ウ)　グループ名の変更 23
8　スイッチの設定 25
(ア)　プロキシ機能の設定 25
(イ)　プロキシ機能の確認 26
(ウ)　リレー機能の設定 27
(エ)　リレー機能の確認 28
(オ)　サブネットの追加 29
(カ)　サブネットの削除 31
(キ)　アプリケーションキーの紐付け 32
(ク)　アプリケーションキーの紐付け解除 34
(ケ)　グループへの加入 35
(コ)　グループからの脱退 37
9　スイッチの操作 39
(ア)　スイッチの ON/OFF 39
(イ)　スイッチの状態確認 41
１０グループに加入しているスイッチの操作 43
(ア)　スイッチの ON/OFF 43
(イ)　グループに加入しているスイッチの状態確認 45
１１その他 47
(ア)　Mesh Library のリセット 47
(イ)　Mesh Database のエクスポート 49
(ウ)　Mesh Database のインポート 51

(エ)　ログのエクスポート.....53
(オ)　すべてのログの削除.....55
１２本書について.....56

1　はじめに

AC スイッチ・デバイスを操作するためには、専用のアプリケーションを使用して設定する必要があります。
この説明書では、AC スイッチ・デバイスを設定する方法について記載します。

2　設定の概要

以下に、設定の概要（流れ）について記載します。

① デバイスをプロビジョニングします。
プロビジョニングされていないデバイスは、使用することはできません。
プロビジョニングが完了したデバイスを「ノード」と記載します。

② サブネットを作成します。
※予め「Default Subnet」が作成されていますので、特に必要がない場合は、この「Default Subnet」を使用してください。（サブネット名の変更は可能です。）
※デバイスを操作するためには、少なくとも 1 つのサブネットが必要です。

③ アプリケーションキーを作成します。
ノードにアプリケーションキーを紐づけることにより、操作できるようになります。

④ グループを作成します。
グループをノードに設定することにより、グループ単位でノードを操作することができるようになります。

⑤ ノードを設定します。ノードを操作するためには、以下の設定を行う必要があります。
(ア) 事前に作成したサブネットにノードを追加します。
(イ) 事前に作成したアプリケーションキーをサブネットに紐付けます。
(ウ) 事前に作成したアプリケーションキーをノードに紐付けます。
(エ) ノードをグループに加入させます。
　　グループ単位でノードを操作しない場合は、グループに加入する必要はありません。
(オ) サブネット、アプリケーションキー、グループ、ノードの関係について、「図 1　概要構成」に記載します。

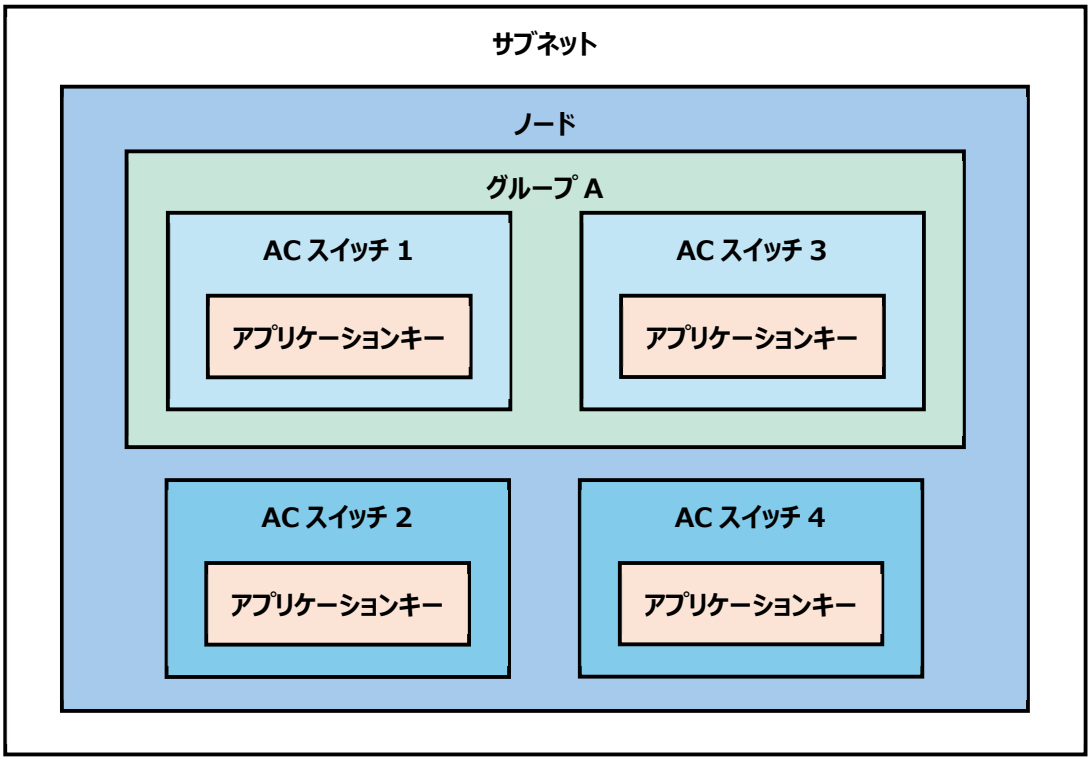


図 1 概要構成

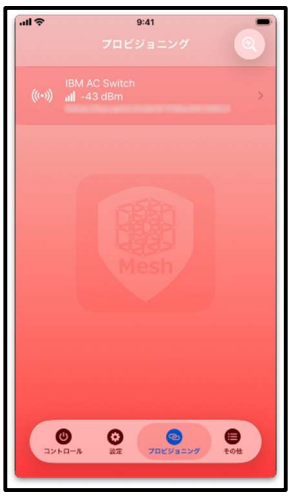
3 表示アイコン

	サブネットを表します。
	アプリケーションキーを表します。
	ノード（デバイス）を表します。
	グループを表します。
	グループに加入しているノード数
	グループに通知するノード数
	プロキシノードに接続されていることを表します。 （接続中）
	プロキシノードに接続されていないことを示します。 （切断中）

4　プロビジョニング

下部メニューの「プロビジョニング」をタップします

右上の「虫眼鏡」ボタンをタップします。
デバイスの探索が開始されます。
中断する場合は、右上の「砂時計」ボタンをタップします



発見されたデバイスが表示されます。
プロビジョニングを実施するデバイスをタップします

【補足】
デバイスが表示されない場合は、デバイスをリセットしてください。

デバイスの名前、UUID（デバイス識別番号）を確認してください。
※UUID は、デバイス固有の識別番号です。
必要に応じてプロキシ機能を有効化、または無効化します。
右上の「✓」ボタンをタップします。

【重要】

- **デバイスを操作するためには、プロキシ機能が有効化されたノードが少なくとも 1 台必要です。**
- **プロキシ機能が有効化されたデバイスが存在しない場合、デバイスに接続できなくなりますので、注意してください。**

プロビジョニングが開始されます。

プロビジョニングが完了すると、「デバイスをプロビジョニングしました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
プロビジョニングに失敗した場合は、デバイスをリセットした後、再度、プロビジョニングを実施してください

プロビジョニングが完了すると、プロビジョニングしたデバイスは、表示されなくなります。

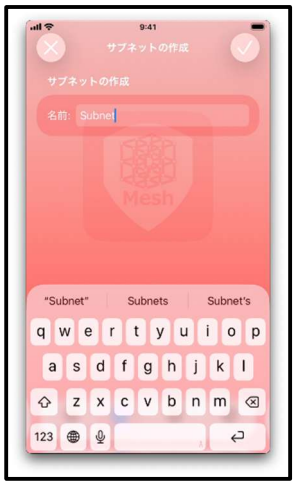
5　サブネットの設定

(ア) サブネットの作成

ノードを追加するサブネットが少なくとも１つ必要です。サブネットが存在しない場合は、作成してください。
予め「Default Subnet」が作成されています。

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「サブネット」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。

右上の「＋」ボタンをタップします。



名前欄に作成するサブネット名を入力します。
右上の「✓」ボタンをタップします。

「サブネットを作成しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットの作成に失敗した場合、再度、実施してください。

作成したサブネットが表示されていることを確認してください。

(イ) サブネットの削除

※サブネットがノードで使用されている場合、削除することができません。

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「サブネット」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。

削除するサブネットを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。

「サブネットを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットの削除に失敗した場合、再度、実施してください。

サブネットが削除されていることを確認してください。

(ウ) サブネット名の変更

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「サブネット」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。

名前を変更するサブネットを左にスワイプします。
「ギア」ボタンをタップします。

「名前」にサブネット名を入力します。
「✓」ボタンをタップします。

「サブネット名を変更しました。」と表示されます。
「OK」をタップします。

【補足】
サブネット名の変更に失敗した場合、再度、変更を行ってください。

サブネット名が変更されていることを確認してください。

6　アプリケーションキーの設定

(ア)　アプリケーションキーの作成

スイッチを操作するためには、少なくとも 1 つのアプリケーションキーが必要です。
アプリケーションキーが作成されていない場合は、アプリケーションキーを作成してください。

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「アプリケーションキー」をタップします。
右上の「＋」ボタンをタップします。

「名前」欄に作成するアプリケーションキー名を入力します。
右上の「✓」ボタンをタップします。

「アプリケーションキーを作成しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
アプリケーションキーの作成に失敗した場合、再度、実施してください。

作成したアプリケーションキーが表示されていることを確認してください。

（イ）アプリケーションキーの削除

※アプリケーションキーがノードで使用されている場合、削除することができません。

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「アプリケーションキー」をタップします。

削除するアプリケーションキーを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。

「アプリケーションキーを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

アプリケーションキーが削除されていることを確認してください。

(ウ) アプリケーションキー名の変更

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「アプリケーションキー」をタップします。
アプリケーションキーの一覧が表示されます。

名前を変更するアプリケーションキーを左にスワイプします。
「ギア」ボタンをタップします。

「名前」欄にアプリケーションキー名を入力します。
「✓」ボタンをタップします。

「アプリケーションキー名を変更しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
アプリケーションキー名の変更に失敗した場合、再度、変更を行ってください。

アプリケーションキー名が変更されていることを確認してください。

7　グループの設定

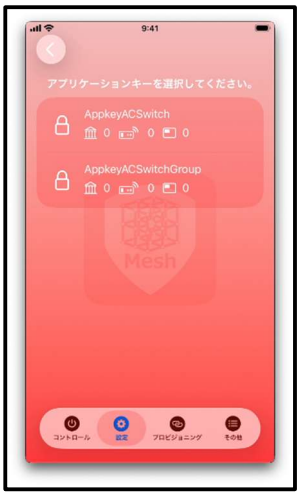
(ア) グループの作成

スイッチをグループ単位で操作するために使用するグループを作成します。

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「グループ」をタップします。
グループの一覧が表示されます
右上の「＋」ボタンをタップします。

「名前」欄に作成するグループ名を入力します。

「アプリケーションキーの設定」項目の「アプリケーションキーを選択してください。」をタップします。



アプリケーションキーの一覧が表示されます。
グループで使用するアプリケーションキーをタップしてください。

右上の「✓」ボタンをタップします。

「グループを作成しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップしてください。

【補足】
グループの作成に失敗した場合は、再度、実施してください。

作成したグループが表示されていることを確認してください。

(イ) グループの削除

※グループがノードで使用されている場合、削除することができません。

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「グループ」をタップします。
グループの一覧が表示されます。

削除するグループを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。

「グループを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

グループが削除されていることを確認してください。

(ウ) グループ名の変更

下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「グループ」をタップします。
グループの一覧が表示されます。

名前を変更するグループを左にスワイプします。
「ギア」ボタンをタップします。

「名前」欄にグループ名を入力します。
「✓」ボタンをタップします。

「グループ名を変更しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
グループ名の変更に失敗した場合、再度、変更を行ってください。

グループ名が変更されていることを確認してください。

8　スイッチの設定

(ア) プロキシ機能の設定

「プロキシ機能」項目の「有効／無効」欄の「トグル」ボタンをタップし、有効／無効を切り替えます。
「設定」ボタンをタップします。

「状態を変更しました。」と表示されます。
「OK」をタップします。

「有効／無効」欄の「トグル」ボタンが、有効化／無効化されていることを確認してください。

(イ) プロキシ機能の確認

「プロキシ機能」項目の「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。

「状態を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

「有効/無効」欄の「トグル」ボタンに現在の状態が反映されます。

（ウ）リレー機能の設定

「リレー機能」項目の「有効／無効」欄の「トグル」ボタンをタップし、有効／無効を切り替えます。
「設定」ボタンをタップします。

「状態を変更しました。」と表示されます。
「OK」をタップします。

「有効／無効」欄の「トグル」ボタンが、有効化／無効化されていることを確認してください。

（エ）リレー機能の確認

「リレー機能」項目の「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。

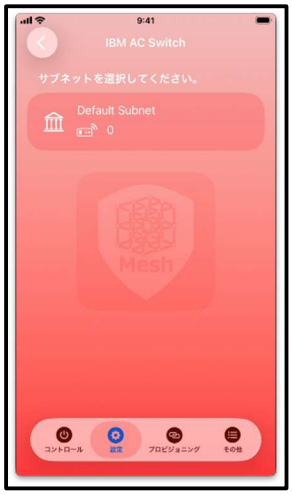
「状態を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

「有効/無効」欄の「トグル」ボタンに現在の状態が反映されます。

(オ) サブネットの追加

サブネットにノードを追加します。
サブネットにノードを追加する（サブネットに加入させる）ことにより、通信を行うことができるようになります。

「追加されたサブネット」項目の「サブネットの追加」をタップします。



サブネットの一覧が表示されます。
ノードを追加するサブネットをタップします。

「サブネットを追加しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットの追加に失敗した場合、再度、実施してください。

「追加されたサブネット」項目にサブネットが表示されていることを確認してください。

(カ) サブネットの削除

サブネットからノードを削除します。

「追加されたサブネット」項目のサブネットを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。

「サブネットを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットからの削除に失敗した場合、再度、実施してください。

「追加されたサブネット」項目にサブネットが表示されていないことを確認してください。

(キ) アプリケーションキーの紐付け

アプリケーションキーをノードに紐付けます。
ノードは、紐付けしたアプリケーションキーを使用して、暗号化通信を行います。

【注意】
適切なサブネットが選択されていることを確認してください。
アプリケーションキーは、サブネットごとに管理されます。
このため、誤ったサブネットにアプリケーションキーを紐付けた場合、操作（暗号化通信）ができなくなったり、セキュリティが低下する恐れがあります。

「追加されたサブネット」項目を確認し、正しいサブネットが選択されていることを確認してください。
「紐付けされているアプリケーションキー」項目の「アプリケーションキーの紐付け」をタップします。

【補足】
青色サブネットマーク：選択されているサブネット
白色サブネットマーク：上記以外のサブネット

紐づけることができるアプリケーションキーの一覧が表示されます。
紐付けるアプリケーションキーをタップします。

【補足】
他のサブネットで使用されているアプリケーションキーは、一覧に表示されません。

「アプリケーションキーを紐づけました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
アプリケーションキーの紐付けに失敗した場合、再度、実施してください。

「紐付けされているアプリケーションキー」項目にアプリケーションキーが表示されていることを確認してください。

(ク) アプリケーションキーの紐付け解除

アプリケーションの紐付けをノードから削除します。

「紐付けされているアプリケーションキー」項目の紐付け解除するアプリケーションキーを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。

「アプリケーションキーを紐付け解除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
アプリケーションキーの紐付け解除に失敗した場合、再度、実施してください。

「紐付けされているアプリケーションキー」項目にアプリケーションキーが表示されていないことを確認してください。

(ケ) グループへの加入

グループ単位でノードを操作する場合は、ノードをグループに加入させる必要があります。
例えば、AC スイッチ 1、AC スイッチ 3 を同じグループに加入させることにより、同時に操作できるようになります。

グループに加入させる「AC スイッチの設定」項目の「AC スイッチ#の設定」をタップします。

＃：スイッチ番号

【補足】
オプション・デバイスを接続していない場合は、グループに加入させることはできますが、操作を行うことはできません。

「加入しているグループ」項目の「グループに加入」をタップします。

グループの一覧が表示されます。
加入するグループをタップします。

「グループに加入しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
グループへの加入に失敗した場合、再度、実施してください。

「加入しているグループ」項目に加入させたグループが表示されていることを確認してください。

(コ) グループからの脱退

「AC スイッチの設定」項目の「AC スイッチ#の設定」をタップします。

#：スイッチ番号

「加入しているグループ」項目のグループを左にスワイプします。
「ゴミ箱」マークをタップします。

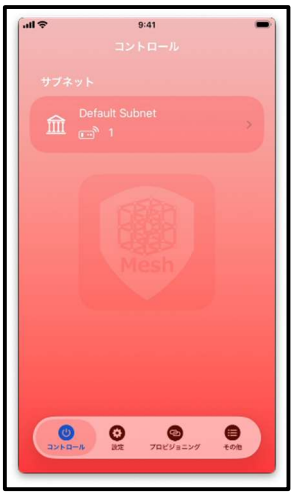
「グループから脱退しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
グループからの脱退に失敗した場合は、再度、実施してください。

「加入しているグループ」項目にグループが表示されていないことを確認してください。

9　スイッチの操作

(ア) スイッチの ON/OFF



下部メニューの「操作」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。
操作するノードが追加されているサブネットをタップします。

「コントロールノード」項目の操作するスイッチが存在するノードをタップします。

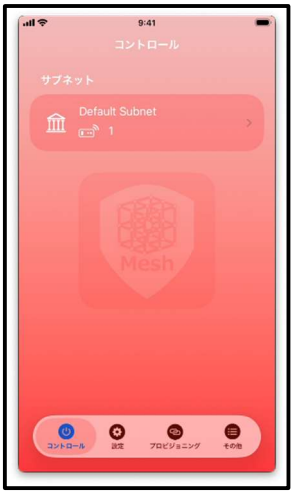
「AC スイッチ＃」項目の「設定する状態」欄のトグルスイッチをタップして、ON/OFF を切り替えます。
「設定」ボタンをタップします。

＃：スイッチ番号

「状態を変更しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
スイッチの ON/OFF に失敗した場合、再度、実施してください。
無線通信（電波）を使用しているため、スイッチの状態が変更されていない恐れがあるため、スイッチの状態変更を行った場合は、状態が変更されていることを確認するようにしてください。

(イ) スイッチの状態確認



下部メニューの「コントロール」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。
操作するノードが追加されているサブネットをタップします。

「コントロールノード」項目の操作するスイッチが存在するノードをタップします。

「AC スイッチ＃」項目の「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。

＃：スイッチ番号

「状態を取得しました。」と表示されます。
「OK」をタップします。

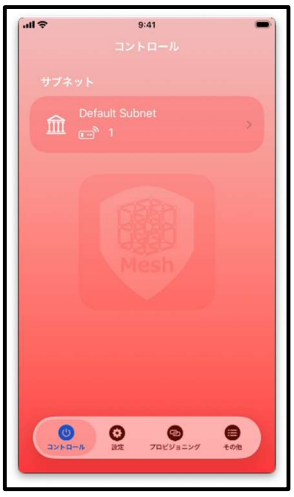
【補足】
スイッチの状態取得に失敗した場合、再度、実施してください。

取得したスイッチの状態は、「AC スイッチ＃」項目の「設定する状態」欄のトグルスイッチに反映されます。

＃：スイッチ番号

１０　グループに加入しているスイッチの操作

(ア)　スイッチの ON/OFF



下部メニューの「コントロール」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。
操作するノードが追加されているサブネットをタップします。

「コントロールグループ」項目の操作するスイッチが存在するグループをタップします。

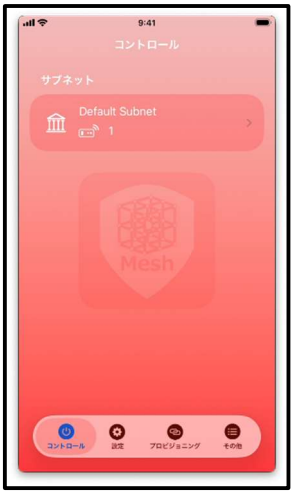
「<グループ名>のコントロール」項目の「設定する状態」欄のトグルスイッチをタップして、ON/OFF を切り替えます。
「設定」ボタンをタップします。

<グループ名>：選択したグループ名が表示されます。

「状態を変更しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
グループに加入しているスイッチの状態を確認してください。
無線通信（電波）を使用しているため、スイッチの数が多い場合、一部のスイッチの状態が正しく変更されない恐れがあります。
状態変更に失敗した場合、再度、「設定」ボタンをタップしてください。

(イ)　グループに加入しているスイッチの状態確認



下部メニューの「コントロール」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。
操作するノードが追加されているサブネットをタップします。

「コントロールグループ」項目の操作するスイッチが存在するグループをタップします。

「<グループ名>のコントロール」項目の「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。

<グループ名>：選択したグループ名が表示されます。

「状態を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
状態取得に失敗した場合、再度、「確認」ボタンをタップしてください。

「現在の状態」項目にグループに加入しているスイッチの現在の状態が表示されます。

【補足】
一部のスイッチの状態が表示されない場合は、再度、「確認」ボタンをタップしてください。
無線通信（電波）を使用しているため、スイッチ数が多い場合、一部のスイッチの状態が取得できず表示されない場合があります。
この場合は、スイッチごとに状態確認を行ってください。

１１　その他

(ア) Mesh Library のリセット

【注意】
Mesh Library をリセットすると、登録されているすべての情報が初期化されますので、注意してください。
改めてノード（デバイス）を再登録するまで、“操作できなく”なります。

下部メニューの「その他」をタップします。
「Mesh Library のリセット」をタップします。

「Mesh Library をリセットしてもよろしいですか。」と表示されます。
リセットする場合は、「リセット」をタップします。
キャンセルする場合は、「キャンセル」をタップします。

以上で、Mesh Library のリセットは終了です。

(イ) Mesh Database のエクスポート

【注意】
エクスポートしたファイルには、セキュリティを確保するための暗号化キーなどの情報が含まれているため、ファイルの扱いには、注意してください。
また、暗号化キーなどの情報が消失した場合、ノード（機器）を操作できなくなるため、定期に Mesh Databse をエクスポートして、バックアップを取得してください。
エクスポートしたファイルを変更や修正しないでください。この場合、正しくインポートできない場合があります。

下部メニューの「その他」をタップします。
「Mesh Database のエクスポート」をタップします。

Mesh Database ファイルが表示されますので、エクスポートするファイルをタップします。

「ファイルに保存」をタップします。

保存する場所を選択し、上部の「保存」ボタンをタップします。

以上で Mesh Database のエクスポートは終了です。
上部の左の「戻る」ボタンをタップします。

(ウ) Mesh Database のインポート

下部メニューの「その他」をタップします。
「Mesh Database のインポート」をタップします。

ファイルが表示されますので、インポートするファイルをタップします。

【補足】

- インポートするファイルが表示されない場合、インポートするファイルがアプリケーション名のフォルダ「MeshMgr By Ingenious」に、が保存されていることを確認してください。
- インポートするファイルの拡張子が、「*.db」になっていることを確認してください。

「Mesh Database をインポートしてもよろしいですか。」と表示されます。
インポートする場合は、「インポート」をタップします。
キャンセルする場合は、「キャンセル」をタップします。

【注意】
登録されているすべての情報が上書きされますので、注意してください。
誤ったファイルをインポートした場合、ノード（デバイス）のコントールができなくなります。

「OK」ボタンをタップします。

【補足】
Mesh Database のインポートに失敗した場合、再度、実施してください。

以上で Mesh Database のインポートは終了です。
上部の左の「戻る」ボタンをタップします。

(エ) ログのエクスポート

アプリケーションの動作に関する問い合わせを頂いた場合、ログの送付をお願いする場合がございます。この場合、以下の記載の通りログをエクスポートして送付してください。

下部メニューの「その他」をタップします。
「ログのエクスポート」をタップします。

ログファイルが表示されます。
エクスポートするログファイルをタップします。

下部の「ファイルに保存」をタップします。

保存する場所を選択し、上部の「保存」ボタンをタップします。

以上でログのエクスポートは終了です。
上部の「戻る」ボタンをタップします。

(オ) すべてのログの削除

下部メニューの「その他」をタップします。
「すべてのログの削除」をタップします。

「すべてのログを削除してもよろしいですか。」と表示されます。
削除する場合、「削除」をタップします。
キャンセルする場合、「キャンセル」をタップします。

以上で、すべてのログの削除は終了です。

１２　本書について

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、当社までご連絡ください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用は行わないでください。

以上